前期後半がスタート　感染対策から新たな可能性も

夏休みが明けて、本校では8月30日（月）から「前期後半」が始まりました。1年間を前期と後期に分ける「2学期制」をとる本校では、夏休み明けを「前期後半の開始」や「前期再開」と呼んでいます。子どもたちはその初日から元気いっぱいです。今日もたくさんの笑顔とにぎやかな声が学校いっぱいに広がっています。

さて、夏休み明けに学校を再開するにあたっては、分散登校やリモートでの授業を実施する学校も多く、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が何より心配されました。本校ではこれまでも手洗いや換気の励行、三密を避けての授業実施、放課後の校内消毒など、感染拡大防止に努めてきましたが、ここで更に気を引き締めて、感染対策のレベルを一段引き上げるべく、次の3点を重点課題としました。

① 教室を最大限広く使うなどして、子どもたちの間の距離をこれまで以上に広くとる。
② 複数の学級で授業を行う場合には、1部屋に入る人数をこれまで以上に減らす。
③ 近距離で一斉に大きな声で話す活動や密集する運動など「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」になっていないか授業の内容や進め方を見直す。

学校として緊張感をもって、更なる感染対策を具体的な形にするものとしました。早速、下校時の密を避けるべく、体育館も待機場所に使ってはどうか、ベンチで密に座らないように間隔を開ける表示をベンチに貼ろうなど、具体的な対策案が次々に出され、それを形にして再開初日を迎えました。

授業の形にも変化が見られます。例えば中学部では、プレイルームに集合しての一斉授業を取りやめ、生徒たちは各教室で電子黒板に向き合い（時には一人一台のタブレットを携えながら）、授業者は一つの教室からZoomで各教室に呼びかけるという、いわば「校内リモート授業」を実施する様子が頻繁に見られるようになりました。密を避けた、感染対策として新たな集団での授業の形であり、また同時に、子どもたちにとっても教師にとっても、ICT機器を活用した新たな学びのスタイルの構築に繋がるチャレンジともなっています。

4月の校長室便りに次のように書いています。「新型コロナウイルスの影響は社会全体に広がり、ついマイナス面にばかり目が行きがちですが、視点を変えると「今しかできないこと」を見つけてチャレンジできる機会でもあります。「当たり前だったこと」の次の「もっといいこと」を見つけるためには、柔軟な発想と知恵の結集が不可欠です。」

感染の終息はいまだ見えてきません。9月から12月にかけては大きな学校行事も控えており、いかに乗り切るべきかと思案を重ねるところですが、これまで同様、「当たり前の次のもっといいこと」を探しながら、果敢に取り組んでいきたいと思います。

今後とも、保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様のお力添えをお願いいたします。